

なかしべつの色を探そう！

～まちの色探しワークショップ～

&

なかしべつ景観まちづくり

フォーラム



報告書

平成30年2月

中標津町

なかしべつの冬の色を探そう！～まちの色探しワークショップ～

□日 時：平成30年2月24日（土）13:30～16:00

□場 所：中標津町総合文化会館（しるべつと）2F 第一研修室

□参加者：20名

□目 的：カラーデザインの講師と共に中標津町内をバスで巡り、歴史や文化、産業などから中標津らしい色を探す。

プログラム

1. 開 会
2. 情報提供「色の基礎知識」 講師：外崎 由香 氏
3. 色探しのまち歩き（バス移動）
4. 振り返りワークショップ
5. 発表・まとめ

◇まちの色探しワークショップ開催の様子



最初にワークショップの経緯や企画について、街づくり推進係長より説明。目的を共有しました。



今回はカラーコンサルティングの実績が多数ある、北海道カラーデザイン研究室代表の外崎由香さんをお招きしました。



外崎代表より、色の基礎知識としてマンセル値や、距離による見え方の違いについて説明していただきました。



説明後、早速バスに乗り込みます。



バスの中では普段意識していない町の色を探しながら目的地に向かいます。



最初の目的地として、国の登録有形文化財である旧北海道農事試験場根室支場庁舎、伝成館に到着しました。



NPO 法人伝成館まちづくり協議会代表の飯島さんと、教育委員会の村田学芸員より伝成館についてお話していただきました。



伝成館を見た後はバスに乗り込み、バイパスを通って次の目的地に向かいます。バスの中では飯島さんと村田学芸員に引き続きお話をしていただきました。



第2の目的地である中標津空港に到着しました。ここでは根室中標津空港ビル株式会社の池本部長より、木を使った中標津空港特有のデザインについてお話していただきました。



池本部長の説明を受けた後は空港の展望台に上がり、雄大に広がる知床連山を眺めて色を探しました。



再びバスに乗り込み、今度は中央通を見いきます。バスの中で市街地の色を探しました。



ゴールである文化会館に到着。研修室に戻ってワークショップを始めます。



5班に分かれて写真を見たり、思い出しながら話し合ってエリアごとの色をワークシートに塗っていきます。外崎代表よりご紹介のあったアプリなども駆使していきます。



ワークシート作成後、各班の代表が発表しました。街中やバイパスはカラフルだが統一性がなかった、空港周辺はモノトーンの印象があった、空き地や空き家が気になった、伝成館周辺は昭和感があって落ち着いている、などの意見がありました。



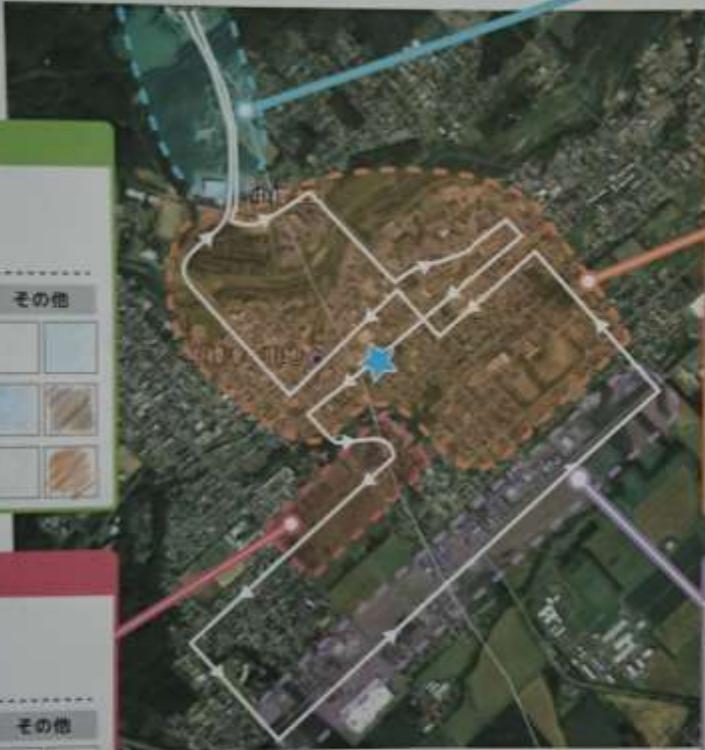
発表後に外崎代表から、今回の企画は見方が変わる最初の一步ということで、現状を知って次へ繋げてほしいとの感想をいただきました。



また、空港から合流した東京都市大学の坂井教授からは、景観は思い出して、考え直すことが大切だと寸評をいただきました。



なかしべつの色を探そう！ 振り返りワークシート



山並み（遠景）エリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他

見つけた色

空港周辺エリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他

見つけた色

まちなかエリア

エリアの印象の
色があふれている

屋根	かべ	看板	その他

見つけた色

歴史・伝承館エリア

エリアの印象の
歴史

屋根	かべ	看板	その他

見つけた色

国道272号バイパスエリア

エリアの印象の
木々

屋根	かべ	看板	その他

見つけた色

日付: 2月24日(土)
 チーム名: 丹羽家 山本瞳
 メンバー: A4-L

なかしべつの色を探そう！ 振り返りワークシート



山並み (遠景) エリア

エリアの印象
全体的に白い山は白、木はグレー、
モトノンの印象

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

歴史・伝統エリア

エリアの印象
木が多い、建物にはまちなかのスペースが
なく、静かなイメージ

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



空港周辺エリア

エリアの印象
木が多く、周囲の建ても木で
できているものが多い。

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

まちなかエリア

エリアの印象
建てものが密集している。色が沢山あり、
ざわついたが、大きい建ても、色がわりと
統一されている。

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

国道272号バイパスエリア

エリアの印象
店が多く、まちなかエリアに比べて、
色は、きりしている。原色も多い。

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日付：2月24日(土)
チーム名：B4-L
メンバー：重松さん 伊藤さん

なかしべつの色を探そう！ 振り返りワークシート



空港周辺エリア

エリアの印象 シンプル

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色				

山並み（温泉）エリア

エリアの印象 山と防風林

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色				

まちなかエリア

エリアの印象 色がバラバラ（カラフル）
看板が多い

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色				

歴史・伝統エリア

エリアの印象 色が統一されていた

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色				

国道272号バイパスエリア

エリアの印象 大型店舗が多く、看板やお花の多い看板が多い。

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色				

日付：2018年2月24日
チーム名：C
メンバー：本間 晴義 糸氏 柳谷

なかしべつの色を探そう！ 振り返りワークシート



空港周辺エリア

エリアの印象
木と雪、空と自然、建築物が支那科

池本部長説明

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

山並み（遠景）エリア

エリアの印象
山が北海道の山、緑と雪、木々、自然の音

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

まちなかエリア

エリアの印象
お洒落な、住居と商業が混在、雑然とした感じが有り、デザインの色がいろいろ

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

歴史・伝承館エリア

エリアの印象
古い、石造りの建物、歴史を感じる、静かな

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

国道272号バイパスエリア

エリアの印象
賑やかな、自主的、道路、企業、車社会、大規模店舗

	屋根	かべ	看板	その他
見つけた色	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日付：2月24日（土）
チーム名：チームケンサク（D）
メンバー：高橋、國分、坂井、木嶋

なかしべつの色を探そう！ 振り返りワークシート



山並み（遠景）エリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

見つけた色

空港周辺エリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

見つけた色

まちなかエリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

見つけた色

歴史・伝統エリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

見つけた色

国道272号バイパスエリア

エリアの印象の

屋根	かべ	看板	その他
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

見つけた色

日付： 2018.02.24
 チーム名： E
 メンバー： 坂田 金村 佐藤 奥田

なかしべつ景観まちづくりフォーラム

□日 時：平成30年2月25（日）13:30～16:00

□場 所：中標津経済センター（なかまっぷ）2F コミュニティホール

□参加者：93名

□目 的：カラーデザインについての講演や1年間の景観まちづくり活動の報告、パネルディスカッションにより、来年度に目指す景観整備機構の設立に向けて情報を共有していただく。

プログラム

1. 開 会
2. 開会挨拶
中標津町長 西村 穰
北海道根室振興局産業振興部建設指導課長 山本 一巳
3. 講演「景観色彩の視点から考える“まちづくり”」
北海道カラーデザイン研究所 代表 外崎 由香氏
4. 活動報告「みんなのなかしべつプロジェクト」
5. パネルディスカッション「わたしたちが目指す中標津型景観整備機構とは？」
パネリスト 坂井 文氏
外崎 由香氏
細谷 俊輔（みんなのなかしべつプロジェクト）
國分 知貴（みんなのなかしべつプロジェクト）
コーディネーター 東田 秀美（みんなのなかしべつプロジェクト）
6. 閉会挨拶
なかしべつ景観まちづくりフォーラム実行委員会 会長 森田 正治

なかしべつ景観まちづくりフォーラム

◇開催日時：平成30年2月25日（日） 13：30～16：00

◇開催場所：中標津経済センター2F コミュニティホール

◇参加者：93人

○司会：本間

（なかしべつ景観まちづくりフォーラム事務局）

皆様お待たせいたしました。これよりなかしべつ景観まちづくりフォーラムを開会いたします。開会に際しまして、中標津町長西村穰よりご挨拶いたします。

■開会挨拶：中標津町長 西村 穰

どうも皆様こんにちは。本日はお忙しいところ景観まちづくりフォーラムにお集まりいただき、まことにありがとうございます。

外の空気のひんやりさが和らいできましたが、日差しが長くなってくると武佐山あたりのコントラストが美しくなってくるというのが、毎年の楽しみになっており、毎朝通勤のたびに見ております。そして雪が解けますと、遠音別岳の見返り狐がまた見えてくるという、中標津独特の良い風景が年中楽しめる地域でありまして、本当に景観という言葉はうちの町にピッタリなような気がします。

今日は外崎先生から色という題材で、またちょっと今までとは変わった視点でまちづくりについて語っていただけるといことで、楽しみにしているところであります。色々な会を開催いたしますとたくさん集まっていたいて、特に景観に関しては皆様興味が深い方が多いなということで、それもうちの町の自慢の1つかもかもしれません。色々な視点から見たり聞いたり話したりしながら、まちづくりに関しまして色々な講義をいただき、そして町を作っていくという、そういった皆様の力添えに感謝をする次第でございます。パネリストとして景観策定委員会の坂井先生にもまた来ていただきまして、パネルディスカッションをしていただくというようになっております。中標津町も景観行政団体に昨年指定されまして、景観計画を施行した年でもありますので、そういった部分で景観という言葉が、どんどん町民の皆様の間に浸透して、議論をたくさん重ねていただければなと思っております。こういった機会を大切にしながら、みなさんと勉強して、少しでもいい町にしていくようお願いするところでもあります。

最後に、きていただいた皆様の日頃の行政に対する支援のお礼と、そして景観という言葉がもっともって中標津に定着して、日頃いつも考える良い風景ってなことをぜひ考えていただくような機会になると思いますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございます。



○司会：本間

ありがとうございました。続きましては、主催である北海道根室振興局産業振興部建築指導課山本よりご挨拶申し上げます。

■開会挨拶：根室振興局建築指導課 山本 一巳

根室振興局建築指導課の山本も申します。本日はみんなのなかしべつプロジェクト、NPO法人景観ネットワーク、そして中標津町との共催によるなかしべつ景観まちづくりフォーラムに、多数の皆様の出席をいただき感謝申し上げます。

先ほど町長からお話がありましたように、ここ中標津町におかれましては去年4月から景観行政団体に移りまして、5月には景観計画が施行されたところです。引き続き景観まちづくりに係る取り組みや活動が活発に進められております。今回のフォーラムもその一環として企画し、開催されるものであります。本日の企画を通じましてご参加いただきました皆様が、景観へのご理解と関心を一層高めていただければと思っております。また、昨日に北海道カラーデザイン研究室の外崎代表を講師としてお迎えし、まち歩きとワークショップを行われました。参加者の皆様方におかれましては、楽しみながら色彩という観点から中標津町の景観を気づき、学び、考えることができた、有意義な機会になったものと考えております。また、本日は昨日講師を務めていただきました外崎代表より基調講演と、東京都市大学坂井教授のご講演、また中標津町のまちづくりにご活躍されておりますみんなのなかしべつプロジェクトのメンバーによる活動報告、またNPO法人景観ネットワークの東田理事のコーディネートによりましてパネルディスカッションを予定しております、皆様と共に中標津町の景観への理解や関心を深めるとともに、今後の在り方を考えていきたいと考えております。

北海道におきましても、本道の広大な土地と身近な大自然、またそれを活かした農業景観、そういったものな

ど、他の都府県にはない優位性を活かした良好な景観づくりに向けた取り組みを進めております。現在はその政策を示しました北海道景観形成ビジョンが十年目を迎えておりまして、良好な景観づくりに向けた新たな施策の検討が行われているところです。また、根室管内は北は羅臼町から南は根室市までの1市4町からなりますが、その真ん中に位置しております中標津町の先進的な取り組みや活動が管内にも波及しまして盛り上げていくことができないか、根室振興局でも努力していきたいという風に考えております。

今回のフォーラムが中標津町の景観まちづくりをさらに推進していく会となることを、祈念しております。本日はよろしくお願ひいたします。



○司会：本間

続きまして、本日のフォーラム開催に際しまして、祝電を頂戴しておりますので、ここでご披露させていただきます。

■祝電披露：

衆議院農林水産委員長 衆議院議員 伊東 良孝氏

○司会：本間

以上で祝電の披露を終わらせていただきます。さて、本日は第1部：基調講演及び1年間の取組の報告発表。第2部は講演とパネルディスカッションを行います。最後までどうぞお付き合い下さい。

それではさっそく基調講演に移ります。本日は北海道カラーデザイン研究室の外崎由香代表をお招きしています。外崎さんは一般社団法人日本色彩療法士代表理事でもあり、大学講師や様々な分野におけるカラーコンサルティングの実績が多数あります。札幌景観色70色を活用したカードゲーム「さぼら」をクラウドファンディングで制作したほか、先月には「色彩」を活用した商品開発と研修プログラムでSAPPOROベンチャーグランプリ2017大賞を受賞しています。詳しい経歴につきましてはプログラムの裏面に掲載しておりますのでご覧下さい。それでは外崎さんよろしくお願ひ致します。

■基調講演：

北海道カラーデザイン研究室 代表 外崎 由香氏
「景観色彩の視点から“まちづくり”」



皆様初めましてこんにちは。ご紹介いただきました北海道カラーデザイン研究室代表の外崎由香と申します。外崎と書いてとのざきと呼びます。ちょっと珍しい読み方ですので、覚えてくださったら嬉しいなと思います。

一昨日に札幌から中標津に入りまして、おかげさまでお天気にも恵まれて中標津を楽しませていただいております。今朝も開陽台展望台のほうに行きまして、景色を眺めさせていただきました。実は昨日まち歩きで住民の方と町の中を周らせていただいて、その時に自然の綺麗な景色が誇りだとおっしゃっておいりました。そのように住民の方が町のことを愛して、誇りをもって、それを糧としてどのようにみんなで景観をつくっていくのか、というところがすごく大事なと改めて思った次第です。わたしは色の仕事をしておりますので、ではその景観に色を足した景観色彩とは一体何なのか、どんな事例があるのか、今後どのように使っていけばいいのかという部分を少しお話させていただきます。30分くらいのお話ですがお付き合いいただければと思いますので、宜しくお願ひいたします。ではスライドを使いながらご紹介させていただきます。

普段わたしは色のお仕事をしていますが、なにをしているかよく聞かれます。色というのは実は多岐にわたります。皆さんが今日お召しになっているファッションも色がついています。会場も色がついています。この会場の外壁にも色がついています。それがつながってまち並み、そして景観につながっていきます。それではその色をどうしたらいいのかということですが、色を考えると好き色、好みの色だとしてもバラバラになりがちです。そして各商店さんがうちの看板が目立つように、というようになってしまうとよろしくないで、どうしたらいいのかというところを色彩学に則ってやっていきます。

わたしはそのように色のお仕事をさせていただいておりますが、藤女子大学ですとか、ヒューマンアカデミーなどの専門学校でも色のお話をさせてもらっています。

色というのはすごく大事なことで、特に色で表現していく中では、3つポイントがありまして、「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」ですね。ここを大事にしながらか色というものを展開していきたいと思います。たとえば私は生まれも育ちも北海道ですので、北海道の色、北海道にしかない色というのが大事だなと思っております。では北海道にしかない色を使ってどんな展開をしているのかといいますと、いくつか事例がありまして、先ほど司会の方もご案内してくれましたが、札幌には札幌に似合う景観色というのがあります。それが景観70色というものです。後程これをどのように使ったのかというお話もさせていただきます。あとは北海道が蝦夷地から北海道になった150年という記念の年ですので、限定の折り紙を作ってみようということでそういうのも販売して、札幌の雪まつりも先日ありましたがそこでも販売をさせていただいて、国内外の方に北海道を色で表現するとこんな感じですよというのをPRさせてもらっています。

ではなぜそんなに色にこだわるのかといいますと、私たち人間は五感の生き物です。視覚、味覚、聴覚、嗅覚、触覚、その中でもやはり視覚が一番多い。視覚の中でも色の情報が一番多いのです。人は見た目が9割という本が昔ベストセラーになりましたが、人だけでなく物も場所もそうです。たとえば1つの商品が売れるかどうかというように考えたとき、パッケージの色であったり、チラシの色であったり、ホームページの色であったり、ショップカード、ポップ、陳列、これも全部色が関係しています。商品を売るという立場も大事ですが、中標津を外に売るといった時には、ではどんなふうの色を付けていこうかということも大事な情報になっていくのかなと思います。

今回は3つほど柱を立ててみました。景観色彩を整えることで生まれるまちづくり、先ほど少しご紹介しましたが札幌には札幌に似合う色がありますのでその札幌景観色を使った事例、そして札幌から派生して名寄の事例がありますので、そちらもご紹介させていただきます。そういった色は実は色々なところを使います。たとえば1個の色として赤を使うにしても適材適所に使うことができます。たとえばファッションであれば私的なもので、短期間。ということは好みでいいですね。自分が好きな色を今日のファッションに取り入れて、でも明日着替えればいいのです。ほかの人になんとわれようとも自分で楽しめるというのが私的な色です。これが今度はインテリアになってくると中期間になります。カーテンの色や外壁の色、これは1日2日では変えられないので、中期的なものを考えながら使っていきます。さらに長期間になりますと公的なものになりますので、景観の色、真っ赤な色をどう景観に使っていくか、たとえば赤レンガのようなイメージでまちの色として使っていくか、たとえば人工的で使っていくというのか、間違えるとこの

スライドのようなことが起きます。



騒がしい色と書いて騒色(そうしょく)といいます。騒音というのはガチャガチャした騒がしい音です。ガチャガチャした色が今度はみなさんの住んでいる町にできたらどうでしょうか。この中標津の綺麗な景色の中にこんな真っ赤と真っ黄色の建物がいきなりできたらやっぱりちょっとうるさい、ガチャガチャするんですね。そのようにして建てられた後からそれをなくすというのはとても難しいことですので、建てる前から私たちみんな考えて色のスケールといいますか、ものさし、決め事をやっていくのが大事だと思います。良い例としましては京都ですね。やはり京都は観光の方が多いですし、京都のまち並みというとイメージが湧くと思います。古都ですので、古いまち並み、そして伝統的なもの、この写真のように京都は古い茶色系の色が使われています。この色を守っていこうという取り組みがキチンとなされていて、たとえば看板でもこのような色を使っています。



これは写真の色が悪いのではなく、コカコーラは通常皆さんがご存知なのは赤ですが、赤いコカコーラの自動販売機が茶色いまち並みの中にポンとあると、なんか色が壊れるんですね。なので景観を壊さないように茶色にしてあったり、マクドナルドも茶色、ローソンも青でなく茶色、ツタヤも青じゃなく茶色。このようにどんどん京都らしい色というもので整えています。これにはやはり企業の方の取組ということも大事ですし、条例でそれらが決められています。中標津でも牛乳で乾杯の条例があるように、京都でも色の条例がキチンとされていて、たとえば建物の上に看板がありますがこれをなくしてしまうのですとか、看板の位置を揃えましょうとか、あ

の方にアカゲラはどんなところに住んでいるのか、どこでみられるか、そういったところも見ていきました。それで名寄のことをみんなが勉強した後に出来上がったカードですが、今後は石狩でもカードを作ってというご依頼をいただきました。こういったカードを作る効果としては、やはり色の勉強になったり、景観色彩の関心が上がったり、また自分たちで作りますので、先ほどの札幌のカードは行政と大学の先生が作りましたが、名寄や石狩のは子供たちで全部作ったので、地元への愛着がとても深まったのです。そうしてやっている中で住んでいる人の視点、テレビだけの情報の視点、そして旅行に訪れた人だけの視点、これって違うよねということが見つけられました。そうやっていろいろとやっていくことで、地元への愛着や誇りを見つけていく、そして歴史にも触れることができました。それを今度はどうやって活用していくのか、たとえば歴史であれば保存がまず大事ですが、保存と利用、地産地消、地域の伝統的な建物であったり、文化であったり、それをまず保存して地域の人がどう利用していくかという視点が大事で、その次に他の人が観光としてどう使っていくか、そして最終的に経済的な効果をもし生むのであればその役割分担で、調整や人材育成が必要になっていきます。ここまでは道内のことをご紹介しましたが、道外ではどうなのか、ということでこれは京都の舞鶴市というところで、そこは歴史的建造物の赤レンガというものを活用しております。京都市からちょっと上のほうに上がるのですが、とてもきれいな建物が残っています。最初にこの赤レンガをどうするとなったときに、住民の方達は「あんな古いのいらないよ」と取り壊しの話もあったそうですが、この建設部長、今は都市計画の建設部長さんが頑張っていて、これを町おこしに使いたいということで、どんどんPRしたり研究したりしてきました。おかげさまで今は、この通りホールが市民の憩いの場になっており、成人式もここでやります。



それで市民の人が憩う場になって、さらに舞鶴以外の人もたくさん来ています。そしてこの都市計画の部長さんからスライドを3枚ほどお借りしてきたのですが、私たちの生活には、「ハレとケ」がありますが、こういった歴史的なものをどう保存していくのかというところが非常

に大事です。それにはまず市民が憩うこと、そしてその次に観光の名所にしていくこと、というのも大事です。それでついつい住んでいる人がなんにもないと思いがちで見過ごしている。それも昨日みなさんとまち歩きをして思ったのですが、普段ここの色ってこんなだったんだね、気づかなかったよ、ということも気づくんですよ。特にわたしたち北海道の人は歩かないで車で移動します。そうすると見過ごしているものがたくさんあると思いますので、そこをもう1度見ていって、そしてそこから色々なものを拾って行って、地域の財産にしていくというのがすごく大事だなと思います。まずはそれによってどんどんと人口の数、観光客も増えて、そういったところで町が潤っているということなのかなと思います。景観色彩の方向性というのはもちろんこれがゴールではないのですが、一例としてこういったやり方もあるかなということでご紹介させていただきました。

では中標津ではどうしていったらいいのか。たとえば先ほど紹介した名寄や石狩で作ったカードゲームは市民参加型ですので、地域の色が特色にすぐ出ました。たとえば名寄のひまわりの色など。そういったように子どもたちや大学、地域との交流というので生まれていったので、色を大事します。ただとっても鮮やかな色が多いので、その色そのまま景観色彩に使うのはちょっと難しい。ある程度カラフルに作っています。それに比べて札幌の景観70色は、景観といっているくらいなので外壁に使っています。ただ、自治体と専門家が決めましたので、市民には定着していなかった。ただわたしのように啓蒙活動している人は何人かいます。なのでこの部分をどう組み合わせっていくかということなのかなとわたしは思います。町の歴史、それから文化、色、昔はまずどうだったのか、それによってなにを失ってなにを守るのか、そしてこれから先はどうしていくのかという、まちの色を作っていくのは、住民一人ひとりの地元愛であったり、誇りだったり、それを続けていく努力、継続、そして潤い、それは心の潤いも経済的な潤いも両方じゃないかなと思います。住民が主体になることによってそれが愛着になって、そして輪が繋がっていくのです。今回はいろいろな団体も立ち上げていますので、それがうまくつながっていくのではないかなと思います。そして誰に伝えていくか、やはり次の世代に伝えていくというのが大事かなと思います。色のバランスを昨日はまち歩きで見つけましたが、一回目でしたのでまた次に夏に行ったり、もし専門家がいなくても住民の方でそういったワークを常々やっていく、そして四季によって色の変化を見ていくというのがすごく大事だと思います。そこから出てきた色を今度は色彩学に則って統一と変化のバランスでどこに使うのか、適材適所に組み上げていきます。たとえば大面積で使うときは外壁、ファサードの色は落ち着いた色ですね。先ほどから言っている札幌景観

70色のような落ち着いた色を、まず中標津の外壁にはなにを使おうかというのを決めます。そして小面積ではシンボルカラー、名寄の色のようにこれが中標津だよというような色をみんなで決めて、そして地域の色、誇りに思える色を見つけていくのがいいのではないかなという方向性が1つご紹介できるかなと思います。こういう色を使うことにより、継続が大事なのですね。ここはフィレンツェですが、まちの色を厳しく条例でやっています。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、パラボラアンテナをレンガの色に塗り替える、それくらいのことやっていますのですね。なので皆さんが今やろうとしている景観色彩というのは、継続していくための努力が必要です。ですのでその部分は一人ひとりではなく団体で、継続していくための結束がすごく大事かなと思います。そのためにはまず色って大事なんだということを、昨日と今日でまさに色を体感していただいて気づいていただけたかなと思います。

こういった景観色彩のお話をいろいろなところでさせていただいておりますが、必ず最後にする話があるので、それを話して終わらせていただきます。皆様、まこちゃんハウスをご存じでしょうか。榎岡かずおさんが建てた赤と白のまこちゃんハウスですが、これができたときに裁判になりました。結局勝ったか負けたかみなさんはご存じでしょうか。考えてみてください。もしみなさんが住んでいる町の中にいきなり赤と白のまこちゃんハウスがボンとできました。もしかしたら町のシンボルになるかもしれないですけども、もし皆さんの住んでいる家の隣に建っていたら、毎朝カーテンを開けるたびに赤白赤白が目飛び込んできたらちょっとうるさいですよ。そう考えるとやはり住民の方にとってあれはちょっと騒がしい色だ。「騒色」だ、ということで裁判になりました。裁判になってどっちが勝ったかという、榎岡さんが勝ちました。榎岡さんが勝って結局はそこに住んでいるのですが、後日またテレビで榎岡さんのインタビューを見たのですが、そうすると「あの色は確かに自分のシンボルの色ではあるけども、町の人たちがたくさん集まってくれる憩いの場にしたかったんだよね、だけれどもあれが裁判になってしまっただけで結局僕は今一人で住んでいる」と、それを聞いたときに私はなんか色って整えれば綺麗だけれども、使い方を間違えると暴力にもなると思いました。結局色を使うことによって勝ち負けができましたよね。要は裁判官、弁護士、住民、榎岡さんで勝ち負けができてしまったので、色というものが暴力になりました。もしあそこにわたしの様なカラーの専門家が入っていたらちょっと違ったかもしれない。榎岡さんに対して赤を使うにしても、あんな赤ではなくてもうちょっと抑えた赤にしようねですか、家全体を赤白の縞々にするのではなくて分量を少し変えてみようね、バランスを考えようというように言っていれば、それこ

そ町のシンボルになって観光名所になっているかもしれないし、住民の人が集うコミュニティになったかもしれないです。色はそういうように考えていくと、たかが色ですが、されど色なんです。色の使い方を間違えると、残念なことになります。ですので皆さんが今やろうとしている景観の中の色彩というところにご興味をもっただけなのであれば、この中標津にはどんな色が似合っているのか、どんな色にしたらPRできるのだろうか、誇りを持つてののだろうかということ、今一度考えていただければと思います。色には人の心を動かす力があります。ぜひみなさんの町を美しく、彩り豊かな毎日を送っていただければと思います。わたしの話を終わらせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



○司会：本間

外崎さんどうもありがとうございました。続いてはみんなのなかしべつプロジェクト、略してみんなかのメンバーから、1年間の活動の様子を発表します。まずはみんなかの1年間の活動の様子と、昨日行いました「なかしべつの冬の色を探そう！まちの色探しワークショップ」の様子を、なかしべつ協働の景観まちづくり事業を受託しております株式会社KITABAの松田沙織さんから願います。

報告発表：「みんなのなかしべつプロジェクト」

■活動の様子：松田 沙織

株式会社KITABAの松田と申します。本日はみんなのなかしべつプロジェクト、略してみんなかの1年の活動報告をさせていただきたいと思います。よろしく願います。



初めましてみんなかです。ということで、初めましての方もそうではない方もいらっしゃると思いますが、みんなかは今年度から施行されました中標津町景観計画に沿った活動をしております。具体的な内容としましては、景観まちづくり活動の情報発信や、担い手の発掘などの仲間づくりを行っております。あとは景観まちづくりは大事であるというような意識の醸成を目的とした活動を続けております。今後景観まちづくりを牽引する母体組織となることを想定して活動しております。

今年度の1年のスケジュールですが、全部で6回の話し合いを進めました。このうち2回はin 計根別ということで計根別地区に特化した話し合いをさせていただきました。関連する活動としては、沿道景観調査を8月から9月まで調査させていただきまして、秋には景観学習として中標津東小学校で行いました。そして昨日と今日のまち歩きワークショップと景観まちづくりフォーラムを一緒に企画させていただきました。

活動の様子としてはこのように会議室で話し合いを進められました。参加メンバーとしましては、町内会の方や学校、観光協会、NPO 関係の方など色々な方が集まって活動をさせていただいております。それぞれに話し合いのテーマをもって話し合いを進めて参りました。前半は来年度以降どのようにして組織を作っていくか、どのような活動をしていくかという話を進め、後半ではフォーラムとワークショップの企画について話し合いました。



その中で話した内容につきましては、この団体がこれからどういう目的をもって進めていくかという話で、いろいろな人が関わってほしいという話があり、今までに景観に関わったことのない人たちも気軽に入っていけるような組織になってほしいという意見や、子どもたちや子育て世代などの意見を取り入れて活動していきたいですとか、町内にある色々な団体の調整役として機能していきたいですとか、情報交換の場になっていきたいなという話がありました。

来年度以降の取組についてですが、案としましてこんな取組をしていきたいと話がありました。まずは景観フォトコンテストやフォトツアー、花植え活動などのイベントやツアーをやってほしいという意見があったり、もっと発展して丸山公園の場の活用や全体的なデザイン

の管理、空き家対策・空き店舗のリノベーションなどの活動も考えていきたいという話がありました。また、樹木や建造物の調査もできるようになってほしいという意見もありました。まず初めのうちは小さいコミュニティで小さい身近なこととかから取り組めそうなことからやっていきたいねということで話がまとまっています。

もう1つ、計根別地区でも行われており、計根別地区では昨年度でも景観まちづくりの話し合いを進めており、その中で楽しい交流ができればいいなというお話があったり、いろいろな団体があるのでそれらが協働して活動していきたいというお話や、次世代を担う子どもたちのふるさと意識などの人材育成の視点が大事だというお話があったので、来年度以降は農業高校と計根別学園などと連携したかぼちゃランタンづくりや、計根別の魅力の聞き取りとして、高齢者の方に聞き取りを行い、子どもたちや農高生に話をしてもらいたいということや、景観学習や色探しワークショップ、沿道景観調査なども挙げられました。その中でもかぼちゃランタンづくりにつきましては、実際に実行委員会が発足しまして、来年度の実施に向けて準備を進めております。

これからのみんなかとしては、今年度は仲間集めや来年度以降の具体的な取組について検討を進めていき、その中で景観学習や景観色探し、フォーラムをやってみたりなどの取組を通して考えていきました。来年以降は具体的に景観整備機構を立ち上げるとしたらどうしていきますか、ということで準備会のようなことも考えていきたいと思っております。その体制づくりのためにも他都市の視察を考えていたり、関係団体へのヒアリング、組織化に向けて具体的な活動の目的やメニューを明確化していくなどの取組が考えられます。スケジュールとしては、ワークショップを今年度のように進め、具体的に景観整備機構になるとしたら何が必要か勉強をしたり、また今年度同様に沿道景観調査や景観学習の実施も考えております。来年度もたくさんの人たちと一緒に景観まちづくりを考えていきたいと考えておりますので、新しい参加者もお待ちしております。ぜひご参加ください。

また、情報発信としてみんなかの情報は随時フェイスブックでアップロード中ですので、ぜひこちらもチェックしてください。また、ニューズレターもワークショップごとに配布しておりますので、ぜひ見てみてください。みんなかの1年の活動報告は以上となります。

■なかしべつ冬の色を探そう！

まちの色探しワークショップ：松田 沙織

続きまして、昨日のまちの色探しワークショップの報告をいたします。スケジュールとしましては、最初に外崎先生より情報提供があり、その後まち歩きをして振り返りワークを行いました。バスルートとしましては、しるべつを出発して伝成館で停車、その後バイパスを通過して街中に戻り、中標津空港に行き戻ってくるという

ルートで通りました。



エリアをこのように5つに分けて色について考えました。小学生の方から大人までいろんな年代のいろんな立場の方から参加していただきました。ご家族でしたり、お友達同士での参加もありました。バスに乗ってしるべつを出発しまして、伝成館で壁の色を見たり、中標津空港では展望台から山並みを見ました。当日は晴れていたので綺麗に見えました。そして戻ってきてからはチーム毎でワークシートを使ってまちの色を考えていき、まとめとして参加者の皆さんにエリアごとの色の印象について教えていただきました。伝成館などがある歴史・伝成館エリアは色が統一されていた、昭和っぽい印象もあったなどの意見があり、彩度の低いような色が多いという印象を持ったとの意見もありました。まちなかエリアでは統一性があまりなかった、屋根の色がカラフルだったという意見もありましたが、あまり奇抜ではなかったとの意見もありました。バイパスでは看板の色などがお店のカラーがはっきりと出ているので、奇抜な印象を受けたという意見がありました。空港周辺エリアはシンプル、雪があったことから白い印象や青い印象があったという意見がありました。中標津空港から見える山並みエリアについては、気候の影響もあると思いますが、青っぽい山と上にかかっている白い雪という印象があったという意見があり、かなり複雑な色合いが見えたという意見もありました。そのほかには全体的に電線が多いなどの意見や、このエリアだけやたらと壁が黄色い印象があるなどという意見や、横に広がる雄大な山並みがやはり町の印象を受けているおり、それが町のアイデンティティなどという意見がありました。色だけでなく、まち並み全体でなにが大切なのかということも、共有できたと思います。ご報告としては以上です。

○司会：本間

松田さんありがとうございます。次に沿道景観調査について、E-Photo Clubの飯野哲弥さんをお願いします。

■景観沿道調査：飯野 哲弥

こんにちは。E-Photo Clubの飯野哲弥と申します。本日は沿道景観調査について、調査協力者の目線でお話させていただきます。



E-Photo Clubは、中標津町を中心に活動している写真愛好家の集まりです。会員同士の交流はもちろんですが、規約では写真活動を通しての地域交流と、地域の産業や風景を発信すること、そして地域の写真文化の向上と地域振興に貢献することとしております。

私は初心者向けの一眼レフカメラ写真撮影教室がきっかけでE-Photo Clubに入会しました。会では、例会で写真を出し合って投票によりMVPを選んだり、写真展やブログ、月刊新根室などで道東の魅力を発信しています。その他にも、北根室ランチウェイの「トレイルランニング」などの撮影協力や、普段から中標津の魅力を見つけようとしていることと、新しい取り組みのベースづくりに慣れている、ということから今回の調査について依頼されました。

今回の調査の目的は、防風林や号線道路の「中標津らしい農業景観」を守りつつ、携帯アンテナや太陽光パネルなど「暮らしに必要なもの」を必要な場所に、けれどもできるだけ景観を損なわないように共存していくために、資料として撮影したいということでした。

今回の撮影に関して、高いところから撮影したいということだったので、ドローンでの撮影も何ヶ所かで試してみました。8方向や水平など、撮影技術としては問題ありませんでしたが、道路の真真中で撮影するというので、車が来た時にぶつかってしまうのでは、という安全面での不安ありましたので、今回は軽トラックを使って撮影しよう、ということになりました。

話し合いの結果、武佐岳がキチンと見えているように晴れることの多い9月に、観光客が通るとされる4路線を選択し、軽トラックを使って観光バスの高さから調査をすることになりました。写真は、調査の様子です。



3mぐらいの高さになると観光バスからの目線になって、乗用車ではあまり意識しなかった看板や電線が大きく目立ちました。1コース20カ所前後で止まって、撮影と調査票の記入を行いました。調査表は遠景（武佐岳の見えるところ）、中景（防風林の少し外）、近景（近くで見えるもの）といった距離の分類が調査する上で難しかったです。庇陰（ひいん）林や群木などの樹木や土地のつくりの分類が細かく、調査項目が多くてなかなか大変でした。ここは、私の牧場前です。孤立木があり、E-Photo Clubの仲間が「写真を撮らせてほしい」と言ってくれる場所です。今回、普段は牧草ロールは黒いラップを巻きますが、写真映りがいいということで白いラップをこの場所で巻きました。この場所で8方向撮影するとこのようになります。一眼レフカメラで撮影したので、拡大すると細かく確認ができます。撮影は半日で終わるコースもあれば、1日半かかるところもありましたが、4コースすべて期限までに調査を終えることができました。今回は、みんなかメンバーの景観ネットワークとなかしべつ町民活動ネットワークとやりとりをしながら調査を行いました。その他にも役場には道路での撮影許可や道具の貸し出しを、保険はまちづくりコンサルタントのKITABAにしてもらいました。私は自分の牧場の前を通る、39線を調査を行いました。

私は西竹小中学校の出身で、片道5キロ位の道のりを自転車で通学していました。子どもなりに四季を感じながら通ってはいいましたが、今回、改めて調査ということでポイントをつかみながらみると、地形に伴う河畔林だったり、人の手で整備された林があったりと、今まに気づけなかった発見をすることができました。開拓時代に役割を持って整備されていたんだなあということを実感しました。

まとめとしましては、あくまで個人の経済活動にどこまで踏み入っているのか、そこが景観のジレンマになるかと思います。いまの防風林は、植えてから時間が経ち、大きくなりきって伐採の時期が来ています。国有林や町有林は、伐採した後にもまた植林されていますが、耕地防風林は個人の持ち物になりますので、昔から見ると機械の大型化で牧草地も広がっていったりしているので、また管理や経済的な理由もあると思いますが、伐採された後、植えられない場所も多く感じます。今、この調査でわかったことをまとめております。ぜひ中標津の景観を大事にしながらより良い暮らしをしていくために活用していただけたらと思います。以上で沿道景観調査報告を終わります。どうもありがとうございました。

○司会：本間

飯野さんありがとうございました。次に景観学習について、なかしべつ町民活動ネットワークの新谷利香さんをお願いします。

■景観学習：新谷 利香

景観学習について、なかしべつ町民活動ネットワークの新谷が報告します。



昨年10月31日に中標津町東小学校にてNPO法人景観ネットワークの植田さん、東田さん、教育委員会の村田学芸員が進行役となり、なかしべつ町民活動ネットワークの本間、新谷が補助役として「中標津らしい景観学習～林のちがいがい～」の授業をしました。対象は、総合的な学習の時間を「ふるさとの歴史を学ぶ」をテーマにしている4年生2クラス83名で、午前1クラス、午後1クラスに分けて、中標津の歴史を含む格子状防風林の成り立ちを学んで立体地図を作成しました。

まずは村田学芸員による座学で「格子状防風林」と「河畔林」の違い、またそれぞれの林での動物の分布や河畔林での食物連鎖、川と海が繋がっていることなどを説明しました。



その後、4～5名を1班として合計8班となり、座学での林の違いを振り返りながら、道路や川の流れが書かれた地図に合わせて格子状防風林と河畔林の模型シートを貼り付け、立体地図の作成に取り掛かりました。木のシートを2重3重にするのに苦労したようでしたが、格子状防風林と河畔林を作り終え、次は農家の母屋、畜舎、サイロを、班の中で道路や林との距離や作業スペースを考え意見を出し合いながら配置しました。

午前中は時間に余裕があったので、格子状防風林と河畔林に住む動物をなぞなぞ形式で振り返りました。活発に答えが出ていました。楽しく動物の確認をした後はまた班に戻り、家畜、各々の林に住む動物や鳥、魚の模型を立体地図に付け加えました。このころになると、孤立

木や屋敷林、柵を設置したり標識を書き加えるなど班の個性が出てきました。次は植田さんによる座学で、中標津の歴史変遷地図を見て、中標津の開拓が進み格子状防風林と河畔林が浮かびあがる景観が出来たこと、格子状防風林は河畔林と山岳林を結ぶかつての原生林の役割を担っていること、格子状防風林の防風効果を学びました。そして、また班に戻り農業者が作り上げた土・種子・作物に見立てた粒を立体地図に散布して、児童ひとりひとりが風に扮して息を吹きかけ、防風効果の実験をしました。その結果、格子状防風林や河畔林の手前の粒は飛ばすことはできるが、林の反対側の粒は動かないことがわかり、格子状防風林による防風効果を実感していました。

最後に8班で作成した立体地図を全部持ち寄り、床でつなぎあわせました。すると小さな集落のようになり、自分たちの作った格子状防風林や河畔林の全体像を高いところか確認することができて、歓声をあげていました。最後に自分たちが作成した立体地図の前で記念撮影をしました。帰りに午前午後で作成した立体地図をつなぎ合わせて大きくなった地図を見た児童が、「本当の中標津みたい」と感動していたという話も聞きました。

実際に模型を作りながらの授業は子供たちの笑顔や驚き、意見が活発に出た楽しく身になる授業になりました。以上で景観学習の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○司会：本間

新谷さんありがとうございました。最後に、皆様にお配りしたカラーの表紙の冊子「なかしべつの景観まちづくり」について、NPO 風の想の糸氏セキをお願いします。

■冊子「なかしべつの景観まちづくり」：糸氏 セキ

皆様のこんにちは。お手元に冊子があると思いますが、景観まちづくりを行っている26団体が紹介されております。昨年は18団体でしたが、今年は8団体増えました。



今までに景観まちづくりの取組は様々な形で実行されてきましたが、記憶に新しいところでは、「なかしべつまちづくり町民会議」への参加です。協働のまちづくりが進められました。また「なかしべつまちづくり交流広場」の開催では、しるべつのホールとロビーに各団体のパネル展示とブースが設けられて町民を対象に大いに賑わいました。平成19年から4回実行され、パンフレットも

作成しました。また、平成24年には中標津町自治基本条例が制定され、条例が盛り込まれたカレンダーが作られました。これが町の憲法だ！ということでカレンダーになっております。大事にとっておりました。これらを経て、昨年から中標津の景観まちづくりと題して今回の各団体の活動紹介を取りまとめたのが、本日のこの1冊になります。昨年5月には中標津町景観計画が策定され、ダイジェスト版が皆様に配布されました。これからも景観形成のルールに沿って、景観を守り、つくり、育てるまちづくりを皆様と共に進めていきましょう。ということでこの冊子の紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

■休憩

○司会：本間

お待たせしました。それでは、第2部に移ります。

まずは東京都市大学の坂井文教授に「景観整備機構について」のご講演をいただきます。坂井先生は海外の大学でランドスケープを専攻され、帰国後、北海道大学大学院工学研究所の准教授として教鞭を執られ、現職に至り魅力的な街を創り出す人材の育成をされておられます。公職では内閣府や国土交通省の委員及び検討会、北海道や東京で景観審議会委員など歴任されており、中標津町では昨年5月に施行した「中標津町景観計画」の策定委員長を務められました。それではよろしくお願ひいたします。

■講演：

東京都市大学 教授 坂井 文氏
「景観整備機構について」

こんにちは、坂井です。皆様お久しぶりです。ちょうど1年前のこのフォーラムでもお話させていただきました。わたしの場合は毎回「先生はこれについて話してください」というように決まっていて、前回は作っている景観計画について話してくださいということでしたが、今日はここにある景観整備機構という6文字のことについて話してくださいと言われました。10分ほどの短いお話ですが、先ほどのみんなかの話を聞きながらもうやってるじゃんと思ったのですが、これから皆さんが発展させていこうとしていらっしゃる景観整備機構についてお話ししたいと思います。



景観計画がそうであったように、大元は景観法という法律の下に景観整備機構も位置づけられております。資料に92条を分かりやすく書いてありますが、民間団体や市民による自発的な景観の保存・整備の一層の推進を図る観点から、一定の景観の保全・整備能力を有する公益法人またはNPOを、景観行政団体、この場合は町役場が指定して、良好な景観形成を担う主体として活動していただく団体となっております。なので、景観を整備する機構、機構という言い方が堅苦しいですが、進める団体ということになります。

その仕事はなにかということ、これも93条に6つほど書いてありますが、大きく要約するとこの4つになります。まずは「良好な景観形成に関する専門家の派遣、情報提供、相談その他の援助」と、まさに外崎さんのように来ていただいて色のことを教えていただくという、専門家を派遣して情報提供をしていただくということです。2番目は「重要建造物や重要樹木というものを指定すること」ができるのですが、その指定したものの管理を町役場、景観行政団体から管理の委託を受けるということが出来ます。また「調査研究」ということで、先ほどのみんなかの活動報告で沿道調査を行っていましたが、そういったことを含めた調査研究ができます。そして「景観形成を推進するために必要な業務、啓発」ですが、これもみんなかでやっている景観学習が当てはまると思います。なので先ほども申し上げた通りみんなかはずでこの方向に進みつつあるということになります。

データが古いのですが、平成21年に日本全国で42団体が景観整備機構となっております。



平成25年には94団体ですので倍くらいになっております。平成21の古いデータで申し訳ないのですが、その42団体の種別を円グラフで分けましたが、地方にある建

築士会や建築士事務所協会などの建築関係の方が景観整備機構をやっている、もしくは造園や建設業協会などがやっていると、あとはNPOで、そのほかは3つしかなく、それが財団法人で、京都、大阪市となっております。平成23年には、ねりままちづくりセンターというのも、財団法人として景観整備機構となっております。中標津が狙っているのは建築や造園といった業界のものよりは、NPOや財団法人を目指していると思うので、今日は特にこの財団法人について簡単にお話いたします。京都には歴史があるので違うというように感じるかもしれませんが、やっている事業は大体同じで、京都市には元々景観まちづくりセンターというところがあり、景観に関わらずまちづくりもしているのですが、そこが景観整備機構の第1号となっております。京都と言えば歴史的な建造物がありますが、それは私有物の住宅であったりするので、みなさんが自由に改築したり色を塗り替えたりしていたのを、これだけは、という重要建造物についてはぜひ重要建造物になってくださいという説得を、まずは調査してこの建造物がいかに大事であるかということ、所有者に説得してぜひその指定を受けていただきたいということ、11件ほどやっております。これは重要建造物に景観計画の中で、つまり町役場として指定することはできるのですが、その際には所有者の合意を取らなければならない、合意を取るという大変なところに整備機構が入って調査・説得をやっているということです。もう1つの団体である練馬区のみどりのまちづくりセンターという財団法人ですけども、こちらでやっていらっしゃるのも「情報提供」、「活動のコーディネート」、「支援や相談」などということで、ここから先はホームページでまったく同じサイトが見られるので、後でそれぞれサイトを覗いていただければいいと思うんですけども、下にある緑、水色、赤の三つについて1つずつ説明いたします。



緑色のとっておきの風景というのは、登録制度を設けて市民の方々がこれは大事だよ、ということピックアップして登録してもらおうということです。ちなみに練馬というのはわたしが小さい頃に住んでいた中野区の隣で、いわゆる住宅地です。なので特にコレという建物も思いつきませんし、住宅地になる前は農業地だったので練馬大根が有名だとか東京で言われていた場所ですが、

コレといった風景というのがないように思っていたものを、いやいや住民から見れば、我々住んでいる身から見ればこんなにも自慢したくなるものがある、というのをピックアップしようという動きだと理解していただければいいかなと思います。それをマップに落として、その場所をクリックすればどんなものかすぐに出てきて、それが市民の自慢の場所ですということになります。もう1つは景観まち並み協定といって、隣三軒が集まり、我々の家の前の道は花を植えて綺麗にしようとか、色々なことを決めて協定を組めば、専門家を派遣したりして、どうすれば実現するかお手伝いをするというものです。本当に小さな花咲く道ですとか、生け垣をみんなで作りましょうとか、活動としては実際に見に行ったら、もしかしてこれなのかな、と思うかもしれませんが、市民の方たちが自発的にやろうとして立ち上がってやったことで、景観整備機構が認定して後押ししたというようなことをしています。最後に中標津町でもやっていますが、まちづくり講座、こういったシンポジウムやまち歩きを年に1回やったりしてマップを作ったりしています。このマップは一度サイトで見ると面白いと思うのですが、いくつか散歩コースマップというのがある、作った方がそれぞれ違うみたいで微妙にトーンが違ったマップが載っています。これもわたしは大体わかるのですが、あそこを歩いてなにが楽しいんだっけなあ、とっているんですけども、いやいや実はここにはこんな歴史がありましたとか、そういうことが書いてあるので、これをもって歩くともた新しい発見があるということを目指して作っているようです。なので歴史がないとか大した景観がないというのは日本はほとんどそうで、よっぽどみんなが知っているような歴史的な町とか有名な町ではありますが、東京の中でも真ん中の千代田区や中央区に限られていてほかの町は住宅が並んでいるような普通の街です。ですが自分の街を次世代にもいい景観につなげたいと考えている人たちが少しずつ活動するのをサポートするという役目なのが景観整備機構の大きな役割だと思います。この後に皆様とお話する時間もあるので、そこでまた深くお話できればと思っています。以上です。

○司会：本間

坂井先生ありがとうございました。この後はパネルディスカッション「わたしたちが目指す中標津型景観整備機構とは？」です。準備のためしばらくお待ちください。

○司会：本間

お待たせしました。それではパネルディスカッションに移ります。パネリストは引き続き東京都市大学教授の坂井文先生と、第1部に講演していただきました北海道カラーデザイン研究室代表の外崎由香さん、そしてみんなのなかしべつプロジェクトメンバーである細谷俊輔さんと國分知貴さんの4人です。そしてコーディネーターはNPO法人景観ネットワーク理事の東田秀美さんです。

それではここからの進行は東田さんにお任せします。よろしくをお願いします。

■パネルディスカッション：

「わたしたちが目指す中標津型景観整備機構とは？」

パネリスト 坂井 文氏
外崎 由香氏
細谷 俊輔
國分 知貴
コーディネーター 東田 秀美



(東田コーディネーター)

皆様こんにちは。景観ネットワークの東田ですよろしくお願いいたします。今日はここから16時まで40分間ほどのパネルディスカッションということで、皆様のほうからお話を聞いていきたい思います。見ていただけたらわかると思いますが、今日のこちら側のパネリストは若いメンバーで、一人がとても緊張しております。その緊張を皆様の矢のような視線で突き刺すのではなく、解きほぐすようにしていくことができればなと思います。今回は女性が3人、強いメンバーが集まっているので、ぜひお手柔らかによろしくお願いいたします。ということで、基調講演で外崎先生からお話をお伺いしましたが、前に1度商工会の集まりで来てくださり、昨日まち歩きをして今日基調講演をしたということで、実際にどんな印象を中標津に持ったかということをお話いただければなと思います。よろしくお願いいたします。

(外崎パネリスト)

わたしが中標津に来たのは一昨日と、去年の夏にも商工会さんに呼ばれて、局長さんの熱いお話も聞いて、色々中標津はいいところだな、そして個性的で独特だというところを感じました。まちの景色はもちろん綺麗ですし、それをみなさんが誇りに思っていて、そしてこの雄大な景色が好きだという方が多く、そして人が温かい。やはりそういったところで色を見ていくと、まだまだ綺麗なんですね。自然の色がもちろん多くて、看板が昨日まち歩きしたときに、場所によってはちょっとうるさいという声もありましたが、札幌などと比べるとまだまだ看板が少なく、札幌と看板が大きく違うのは、駐車場の看板ですね。こちらにはありません。真っ黄色と真っ黒の看板などがドーンッときて、そういうのが町の中に

溢れると、先ほど申し上げました騒がしい色、騒色になります。そういったものが出来上がってしまって後から変えてくださいとか止めてくださいというのは難しいので、やはり最初から条例を決めたり、町の色などを考えるなどがあります。それは1色2色ではないかもしれない、例えば札幌では70色で、なぜ70色なのか作った人に聞いたことがあるのですが、10色じゃ少ないし100色じゃ多いし、僕は70がいいというお話でした。当時の行政の方はそれでOKを出したということで、色を作るときに後からそれが伝承されるわけですので、キチンとそれを守っていくというのが大事なと感じましたので、みんなかの皆様が色について考えたときに、後からなぜその色なのか聞かれたときに、僕の好みですというようなものじゃないものを作っていたいただければと思います。

(東田コーディネーター)

はいありがとうございます。では1年ぶりに来られた坂井先生、先ほど景観整備機構のお話をさせていただいて、みんなかを褒めていただきましてありがとうございます。1年ぶりに来た中標津の印象や、1年間こんなことをやっていたんだなということについてコメントをいただければと思います。よろしくをお願いします。

(坂井パネリスト)

昨日から感動しているのですが、わたしの場合は飛行機で入りますので、今日の景観学習のときにお話もありましたが、格子状防風林と河畔林の絶妙な大地が、ほとんど絵画のようですね。毎回パシャパシャと写真を撮るので同じような写真がいっぱいあります。あの美しい風景で中標津にきたなあというのと、昨日今日とさらに感動したのはみんなかの活動が活発に行われていて、本当に胸が熱くなるような思いです。わたしは中標津町の景観計画策定に携わらせていただいたのですが、景観計画を作りながらも、景観計画というのは専門家が入れれば、着々とこの町がどのように出来上がって、どんな景観資産があって、どんな景観の特徴があって、じゃあ景観的に建築物とか都市計画的にどんなことがあればということまでは決まっていくのですが、最後のページのところ、それをどうやって育てていくのかというところが、わたしはこの町以外のところも関わらせていただいておりますけども、やはりそこが薄くなって1~2ページで終わってしまうというのが今までの景観計画で、わたしも受苦したる思いでやってきたのですが、中標津町ではちゃんと景観計画を作る段階で書き込んでいただいて、書き込むということはそれをやる意志があるし、やる気があってこうやっていこうというビジョンがあり、つまり景観計画を作っているときから道筋を引いていたわけですね。その道筋が着実に、今年度みんなかプロジェクトのご説明にありました着々と進んでいるというのを見て、感動しました。発表していただきました沿道景観調査もしっかりしていらして、調査シートというの

も見てみたいと思うぐらいにちゃんとした調査で、個人的に昔の通学路をまじまじ見るとこういうように違うんだという、個人的にもすごく良い経験をしたと思います。景観学習もまさにわたしが最初に申し上げた格子状防風林と河畔林というこの町ならではのものと、そこに動物の生態系や自然、人工物である建築物を置き、そして最後は防風林の効果を息を吹いて体験するという、とても良い学習だなと思いながら聞いておりました。活動団体も26団体ということで、素晴らしい数だなと思い、数だけでなく内容も色々なことをやっていて、みんなかのお話もっと聞きたいなと思っております。よろしくをお願いします。

(東田コーディネーター)

ありがとうございます。いい感じでプレッシャーをいただいたところで、感動したというお言葉でわたしも感動しております。ありがとうございます。今日は町民の方から二人にパネラーとして参加していただきました。みんなかでこの二人に出て欲しいというお話で決まりました。ということでお二人はそれぞれみんなかで活動したり、個人的にお仕事や地域の活動で関わっているということで、今日二人が選ばれてきましたが、まずは細谷さんのほうから、計根別でみんなかということで活動していただいて、先ほど松田さんの報告では来年度にランタン作って実行委員会でやっていこうというところまで報告をいただいたのですが、あの後に実行委員会ではなくてみんなか計根別という組織を作ろうということになり、作ったばかりなんです。その辺のことについてお話いただければと思います。よろしくお願いたします。

(細谷パネリスト)

初めまして。初めての方もいらっしゃるかと思いますけども、見慣れた方もいるので緊張しております。私は実はこのような貴重な場に立たせていただいておりますが、実際に町のことについて考えようと思って今回みんなかのほうに参加させていただいたのですが、みんなかが今年で1年目で、僕も町のことに関して自分のほうで携わりたい、考えていきたいなという部分で、実際に僕も1年生です。今までに町のことに関してずっとご尽力してこられた先輩方の前でこのように話させていただくのは大変恐縮なのですが、計根別での活動についてご報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

東田さんのほうからお話がありましたように、計根別のまちづくりについては前年度からも動いていまして、計根別沿道の空き家や廃屋をどうしていかうか、実際に掛け合って更地にして塀を建てたなどの活動も以前からやられていたので、計根別に関しては活動的で行動に移される方がありがたいことに非常に多くて、今回僕はもともと中標津のほうから参加させていただいて、計根別の回でまた意見をどうでしょうかといただいたときに、

計根別の人口が800人くらいで、中標津の25,000人に対して3%ちょっとくらいなんですけども、その3%ちょっとくらいの町に、計根別幼稚園があり、小中の計根別学園があり、農業高校もありと、子どもが教育を受ける上で幼稚園から高校まで揃っております。そのほかにも農協さんや地域の酪農家さん、私たちのような一般企業が少なからずあるのですが、今までに計根別で活動してきた中で、同志会さん、農協青年部さんと色々団体があるのにもかかわらず一緒に活動をされたことってないんですよ。僕が思ったのは、計根別はこれからまちづくりをどうしていきましょうかという時に、みんなか計根別に集まってくださった方々の平均年齢が50歳くらいだったと思うのです。要は僕たちの親世代で、これからの町のことを考えるのに定年に近い方や、僕の親も実際に定年しているのですが、これからのことを考えなければいけないのに、これから計根別に住んでいく人たち、長い目で住んでいく人たちが少ないなと思っていました。その部分でどうやって幅広い年齢層に関わってもらおうか、どうやって引っ張り出そうかなというのがあったので、そういう部分で僕のほうから提案させていただきましたのがランタンづくりの発端に当たるのですが、実はカボチャに愛着があるわけでもなく、計根別でカボチャを作っているわけでもありませんでした。ただ実質計根別というのは農家さんが主体となっており、後は農業高校があるので、農業に強いという部分が計根別には結構あったので、簡単な発想からなにか農産物を使って町おこし、あるいは町の中の景観的な部分をできないかなというのが始まりでした。ハロウィンというのは世界的にも経済効果が大きくて、日本でもハロウィンの季節になると中標津でも東武さんのような大型の商業施設にハロウィングッズがいっぱい出てきたりですとか、仮装してパーティ的なことをしましょうかという動きがあったので、カボチャと町の活性化を図るためにハロウィンっていいんじゃないかなと思いました。それで計根別のほうでお話をさせていただいたときに、できればせつかく幼稚園から高校、そして大人や色々な団体がいるということで、幅広い年代や団体を巻き込んだような活動をしたと思ったのです。そういう部分でたとえば幼稚園の子たちに畑に水を撒いてもらおうですとか、農高さんに指導していただくですとか、計根別学園さんを交えてカボチャを加工してハロウィンのランタンをつくらうという、それを計根別の町の中に飾ることによって一時的ではありますが景観に変化があるのかなと、そして計根別の活動というのは中標津町の計根別地区ですので、それを発信していくことで中標津町のアピールにもつながればいいなというのが発端でした。それを話していく上で、結構大変なこと簡単にはできないだろうという意見があるのかなというのが本音だったのですが、みなさんが結構やってみようやってみようという協力的な意見を出

していただいて、その中で役場さんのほうからご協力をいただいて、計根別のみんなかというのが発足しました。それで実際に今新しく集まったメンバーについては、最初に集まったみんなかメンバーは先ほどお話した通り平均年齢50歳だったのですが、今回集まって名簿に上がっていただいた方の世代が子どもの親世代、要はPTAや町内会の育成メンバーが主になっておりまして、これから子どもを育てていく上で、自分たちの子どもたちが計根別にもっと愛着をもっていただける、それが将来的にもまちづくりにつながり、計根別では高齢化が進んでいるので今後の町の衰退を食い止めるという部分で、計根別でのランタンづくりが少しでも起爆剤になればなど、進んでおります。以上です。



(東田コーディネーター)

火曜日にみんなか計根別の集まりがありますが、それは30代40代が集まるということですね。今、苗を買おうですとか、農高さんに育ててもらって水を上げようとか、植え替えてみんなで育てようというような計画づくりについて、今度の火曜日に第1回の本格的な実行委員会があります。細谷さんありがとうございました。次はお隣の國分さんですが、國分さんの場合は先ほどのみんなかの活動報告がありました、1回入ってくれたぐらいな感じなんですけど、ではなぜ國分さんがここに座ることになったのかというと、普段の本人のお仕事や感覚などが、より景観整備機構でやりたかったことなどに近いということがあって、たぶん個人的にはなんで俺がと思っているところがあると思うのですが、実際に今やられていることがかなり景観まちづくりに近いことということが、ほかのみんなかのメンバーも彼自身もわかっているの、座っていただいております。今、自分がやっていることや思っていることが景観まちづくりだと言われてしまっている状況も含めて、どのように思っているかお話しいただければと思います。

(國分パネリスト)

皆様こんにちは。わたくしは今、仕事は地域雇用創造協議会と色々新聞でチラシ折り込みや講座の告知で入っていると思うので、耳にされたこともある方もいらっしゃると思うのですが、そこで商品開発といって、地域の雇用に将来的に結びつくような商品を観光や食や

林業の分野でやっていて、そういうような仕事を2年前にいわゆるUターンで戻ってきてからさせていただいておりました。そこでのお仕事と感覚が、景観まちづくりだと東田さんに言われて、いまだにピンときていないところもあるのですが、そういうお仕事をされていてこういう場に座らせていただいているというような経緯です。



自分がやってきたことは仕事でというのがありますし、自分の感覚としても今やっている仕事は重なっていたり、離れたという感覚だったんですけども、僕はもともと高校まではこっちにいて、高校を卒業してからは札幌に行って料理をしていたのですが、その後は飲食からニセコのエリアに行ってラフティングのガイドなどもやっておりました。それでこういった町にこういう仕事があるからどうだという話をとある人からいただいて、それが戻ってくるきっかけとなって今やっているのですが、そういったものを観光の商品などを開発するときに、できれば自分の経験を活かして、中標津にはそういった商品や観光プログラムとかがなかったのもそういったものを作っていました。観光での商品開発をやっていましたが、それが景観につながると、例えば僕は写真も好きで、写真を撮ったり映像で動画を作ったりというのも趣味でやっているのですが、そういったのも景観の仕事になりますよというお話をいただいており、協議会の仕事で来月で終わって、その中でこの関わりと自分のしてきたことが重なるという部分で、非常に戸惑っております。

(東田コーディネーター)

ありがとうございます。そういうことで、戸惑っている國分さんをスカウトしている途中の東田さんという関係性になっています。ではまた改めて坂井先生に戻るのでありますが、まずは日本全国に見て景観整備機構というものがどういうものなのかというのをご紹介いただいて、先ほどスライドの中でもありましたが、もし中標津で景観整備機構を作るとしたらどんな形になりそうなのかというところをどう思っているかというのを詳しくお願いできればと思います。

(坂井パネリスト)

景観整備機構がどのようなものかというのはわかってけど、じゃあ中標津ではどうなるの、ということだと思

いますが、スライドの時に少し説明させていただいたことですが、ここは建築業者や造園業者などの関係者がやるのではなく、NPOか財団法人系になるんだろうなと思っているのは、こうやって住民の方が中心となってやっているということなんですよ。それは全国的に見ても珍しくて、建設業や造園業というのは業なので、なにかお手伝いをしながら仕事になるかなというのがあったの思うのです。だから最初に景観整備機構が景観法で出来たときに、建築士会さんとかがまずは手を挙げたというのが見方としてはあると思います。住民が、大事だからやっつけようよという今日の26団体とかが、色々な種類の団体のネットワークで景観整備機構を作ろうというのは、たぶん日本で初めてかもしれないですね。なので景観計画を作っている2年前からこの景観整備機構はスペシャルなものになるだろうなという気はしているのです。今はまだ成長段階ですので、見守っているところですが、景観整備機構というのは専門家を送れる、専門家がサポートするという、その専門家はもうみなさん、東田さんをおまわっている時点で大丈夫です。東田さんのネットワークで専門家を連れてきます。ではなぜ専門家が必要なのか。景観というのは毎日見ているものなので、「これが普通だろ」とか、「当たり前だろ」とか、「行政もやろうしてるけどあれだからきっとできないだろう」という、ある意味で常識化してしまっていて、こんなもんだろとみんな思っていることがあるだろうと思うんですよ。だけれどもみなさんが、「いやでもこれおかしいよね」、「あの看板どう考えても大きすぎない?」とか、「あの色はあれでいいんだっけ」というのを言っていて、専門家が出てくると「そうなんですあの色はちょっと強すぎます」とか「あの看板は大きすぎます」とか「あの建築の赤白というのはちょっとおかしいですね」というように言っていて、また違う全国を見ているわたしみたいなのが「そうなんですよほかの町ではこのようにやっつけて、それをクリアしましたよ」みたいなことを喋ると、じゃあできるんじゃないかという話になって少し前に進むという意味で、専門家を呼ぶというのはそういうことがあります。ですので景観整備機構という中標津独特の住民のグループのネットワークを作って、その方々の中でも沿道調査ですとか景観学習などいろんな活動を通じて、「なんかこれおかしいよね」とか「なんかこれもっとこうなったほうがいいよね」というのを専門家に来てもらってアドバイスをもらってそうか「そういうことか」みたいなことをして進めるという意味で、ぜひ景観整備機構としてなにか作っていただくといいかなと思います。ただ課題としては全国的な課題ですが、財源はどうするかということですね。やはり自主財源としてなんとか稼げるとまではいいませんが、自分でなんとかやっつけていけるような仕組みを作る必要があると思います。ただその辺も専門家の知恵とかを入れながら作るこ

とは可能ですし、先ほどお話を聞いていて思ったのは、持続可能にやっていくためにそういった組織は必要です。たとえば少し世代が若返るということもそのままではなかなか進まないですが、景観やまちづくりという言葉で、若い人が入って一緒にやっていけるという基盤を作るという意味でとても大事だと思います。一言で中標津型の景観整備機構というのであれば、この住民活動のネットワークの上に作られている非常に独特な組織ということだと思います。

(東田コーディネーター)

ありがとうございます。住民のみなさんのネットワークの上に作るのが中標津型の景観整備機構ではないかというお話でしたが、それを受けてお二人はどう思われたか、どのようにしていったらどうだろうとか、こんなことだったらやれそうだとか、逆にそんなのヤバイよやれないよ、といったお話をお願いします。

(細谷パネリスト)

中標津型の景観整備機構なんですけども、お恥ずかしながら景観整備機構の意味や、今日も何度かお話が出てきました中標津町の格子状防風林を知らなかったんですよ。それで先ほど國分さんとも話していたんですけども、その存在も知らないし、その重要性なども、それが中標津の財産であるということもまったく知らなかったんですよ。知らないということ自体は恥ずかしいことではないと思うんですけども、今、景観学習ですとかで、小学校とかのたくさんの子どもたちに格子状防風林の存在が知れ渡る機会が増えてきたので、その辺をもっと、先ほど E-Photo Club の飯野さんのほうからもお話が出ていましたが、例えば木が切られるですとか、その現状を考えると、やはり子供たちが知らないことには、知らない人たちが増えていくと、簡単にこの木が邪魔くさいな切っ飛ばえというようになってしまうと思うんですよ。なので、子ども達に景観整備機構や格子状防風林という漢字が来ると、どうしても先入観で取っ付きにくく、興味が湧かないというのが僕の年でもあるので、子どもたちにもあると思います。そういう部分で、僕がみんなから初めて聞いたのは、格子状防風林が NASA で宇宙から見たときに見えたのが万里の長城と格子状防風林ですというお話を聞いたときに、すごく興味が湧いたんですよ。ということは取っ掛かりや切り口が大事だということだと思います。例えば子どもたちに格子状防風林を知っていますかと言ったらまだまだ知らない方がたくさんいると思いますし、僕たちの世代でもまだまだ知らない方がいっぱいいると思います。ただ、中標津町の格子状防風林を宇宙から見たときに、それが目視できるんです、万里の長城か格子状防風林かと言ったときにすごく興味が湧くと思うので、そういう切り口をもっともっと中標津町の住んでいる方々、年配の方や子どもたちにも発信していくことによって、それが将来的に守られていくのか

な、それが守られることによってこれからの中標津町の観光の一部につながっていくのかなと、今日の講演もそうですし、今までのみんなかのほうで活動させていただいて勉強させていただいた部分です。

(東田コーディネーター)

ありがとうございました。わかりやすく子どもたちに教える、プラス大人たちにも教えて発信する。中標津型の景観整備機構もわかりやすく、子どもたちにも優しく、大人にももっと優しく、そんなイメージです。では國分さんお願いします。

(國分パネリスト)

景観整備機構がどうあるべきかということですが、話の内容が細谷さんと被ってしまうかもしれませんが、こういった漢字が並ぶと一体なにをしてほしい団体なのか、僕がいた中標津町地域雇用創造協議会も一体なにをやっているのかとよく言われるのですが、やはりわかりづらいかと、イマイチ僕がピンときていない部分があるのはやはりそこだと思うのですが、知るキッカケがないので、僕も色々な文化とか歴史に興味を持ち始めたのがこの商品開発の仕事を通じて中標津に来てほしいというような活動ですとか、観光とかで来て、お土産作りもそうですが、知ってもらおうという活動を通じて中標津を初めて知ったといいますか、地元は中標津だったのですが、なんにも知らなかったというのを2年前に気づいて、商品開発を通じて酪農体験や自転車で開陽台で行くなどいろんなのに開発に関わる中で、そこに色んな方と話をし、たぶん元々ブラタモリとかも好きだったので、その延長で知れば知るほど興味が出てきて、格子状防風林っていうのも知ったのが最近なので、知るとすごく面白くて、中標津の歴史もまだ100年ぐらいで、まだ生きている方もいて、京都とかになるともう亡くなられていて生の声が聞けないんですけども、そういったのが聞けるというのがとても実は貴重な地域なんじゃないかというのも気づけたのは、その仕事をしてからだと思います。なのでこの機構も、役割としては特にこれからの時代の景観やまちづくりというようになるので、年齢が若い人に、僕は今31歳ですが、それぐらいの年齢の人に知ってもらえるような切り口の探し方とか、興味を持ってもらいやすいものを、例えば町の山や市街地などを良いデザインにして、知ってもらう。じゃあ防風林ってなんだみたいに、中高生や若い地元にいる人とかが興味を持つキッカケを作れるかもしれませんし、もしかするとそれをやっている人が若い人であれば、なんか若い人がやっているけどなにか、みたいな興味をキッカケに、僕も前にそうだったんですけども、大人の方がやっていると、まあいっか、となるので、そういうのが変化していくキッカケになる団体という機能がないと思うので、それになればいいかなと個人的には思っております。

(東田コーディネーター)

ありがとうございます。聞いているとなんとなくできそうな気がしてきますね。二人がいればできるような気がしてしまいます。根本的なところでは先ほど先生が褒めてくださったように東田さんに任せればとなりますが、やはり私も古いので、そうではない人たちにどう語りかけていくか、切り口をもっていくかというときに、今まで一緒にやってくださった方というのは、本当に申し訳ないんですけども古いんだと思います。それでその人たちはもちろん支えてくださる皆さんとして大事なんですけども、うるさいことを言わないで見守ったり、危ない時に、本当に転びそうになったときにちょっとだけ手を支えて、でももしかしたら転んでもらったほうがいいかもしれないみたいな、今日の場合から世代交代といいますか、切り口を変えるとか、転びそうになったときに手を差し伸べるのではなくグッとこらえて転ぶのも勉強なんだよなというように思うようなことからなんとなく中標津型の景観整備機構が出来るような気がここ半年間している東田です。ありがとうございます。さて、外崎先生には今回は色ということで来ていただいたんですけども、もし先ほどの切り口を変えて、景観整備機構という難しい名前ですが、これからはみんなかセンターとかになるかもしれませんが、それを考えた中で、今回は色のことで夏にもこれから来ていただこうとも私たちは思っていて、その中でなにかこんなことができるよとか、注意点とか、こういうことは面白いよということがあればもう少しお願いします。

(外崎パネリスト)

またまち歩きなどをすれば面白いと思いますが、要はその土地らしさをキチンと見つけていくことだと思います。注意点としてはつまらないことをするなということですが、色の話とは少し違うんですけども、その土地の地元が元気かどうかというのはやはり町に現れるのかなと思います。たとえば私も東西色々なところに出張を活かせてもらおうと、今回はこちらのほうは東武さんとかがすごく元気に頑張っていて、稚内や名寄行くと西條さんが頑張っていて、道南に行くとか志賀さんになると、そういうように地元のスーパーとかが頑張って、そこにまた住民のみなさんが行って潤うというのがすごく大事だと思います。札幌はイオンしかない、と言えば失礼ですけども、そのように全国が一緒になってしまうとつまらないんですよ。なのでそのまだ中標津らしさが残っている現状でキチンとまちを歩いて、把握して、そしてそれを反映していくと、もしかしたら KIRAWAY とかそういういったもののサイン案内を作るときに、なんでもいいんじゃないかと、中標津らしい色を作って、尚且つ景観と溶け込む色ですね、邪魔にならない騒色にならないものを考えていくなど、それをやるにはやはり根気がいるのかなと思います。なぜ根気がいるのかと言いますと、先ほど私のお話でお伝えした舞鶴の話ですが、今はとても観光

地にもなっていて潤ってはいいるのですが、あれをやるのに20年かかっているんですよ。國分さんが今31歳ということで51歳まで頑張っていたとということになります。それくらいの根気を続けていただくというのが大事でして、それでやっていくときに住民の方を中心にして、行政さんとか専門家とか、団体ですね、例えば自分の担当が終わって任期が終わったからそれで終了、ではなくて次の人につなぐには、まちづくりというのは人づくりなんじゃないかなと、よく言われていることですけども、そこも十分大事かなと思います。さらに今は時代が違い SNS などの情報、綺麗な風景を作って発信すると、お写真を撮っている団体がありますので、そういったところでリンクしてどんどんやっていくことによってなにかまた違う切り口、後はチラ見せだけして、ここにきたらもっとここに穴場があるんだよというビューポイントということも、まだまだこれからやれることというのがたくさんあると思いますので、すごく期待しております。以上です。

(東田コーディネーター)

ありがとうございます。中標津らしい色を作る、根気がいるということで、中標津のみなさんは農業者の方が基本なので根気はあると思います。今日は中標津型景観整備機構というのがどんな形になっていくのかということのお話をするというのですが、会場の中からお一人かお二人くらいでなにか質問や自分の思いなどがあればお願いします。

(来場者)

若い人にエールを送りたいと思います。本当に興味があり、わたしは退職してもう18年になるのでですけども、毎年西興部というところに行っていてですね、西興部というのはどういうところかということ、新しく家を建てる時に助成金を出してもらえ、そして家の壁を橙色の色を塗っている。それで山から入るところがあるんですけども、外国だと思うくらいに綺麗で素晴らしい。人口は1100人くらいの村なんですけど、行った時に驚きがあって、それでこっちもこういうようにならないかななんて思ったこともありまして、でもそれを人に言ったら、町がそんな家を建てるのに何百万も出すわけじゃないなんていう笑い話になったんですけども、細谷さんの話を聞いていたら、これはいけると思いました。800人ということで、幼稚園から小中があって高校もあって、農協のような団体もあるということで、住民で協力して今度家建てる時にこうしようという動きをしていけば、おそらく40年50年後には素晴らしい1つの小さな町が出来ると考えながらずっと聞いておりました。夢みたく話ですが、それができるんじゃないかと。そのためには企業があったり、少なくとも学校がなければいけないが、学校が揃っているの、西興部では子どもが少ないから余所から連れてくるんですけども、中学2、3年生になると海外に一週

間の修学旅行に行っているという話を聞いていて、景観を含めて将来的にはたとえばこの町からあつちに住みたいとか、そういうようなことになりやしないかなと思って聞いていました。頑張ってください。

(東田コーディネーター)

ありがとうございました。計根別ということで細谷さんからお願いします。

(細谷パネリスト)

エールいただきましてありがとうございました。僕も計根別に特化するわけではないですが、やはり今まちの中を少しでも良くしていこうというお話が出てきてまして、なかまっぶの隣にタワラマップ川があって、そこにベンチがあって屋根がかかってて柱があるんですけども、そのデザインが白樺だったり、というのはやはり中標津でも白樺並木というのが連動しているのかなと思います。それでそういう部分で中標津町でも1本立っているんですけども、電柱のデザインを白樺にしてはどうだろうかですか、まちなかの街灯をもうちょっと優しい雰囲気があるようなオレンジ色にしてはどうだろうかという話もまちづくりミーティングの中で出ていまして、町長や行政の方もたくさん参加されていると思うんですけども、計根別という小さな町でどんどんできれば試験的に、中標津でやってしまうとごく一部の取組になってしまうので、計根別に関しては通りが1本ですので、その電柱を変えてもある程度予算的には抑えられると思うので、そういう部分でぜひ計根別で試していただいて、それを中標津にフィードバックしていただければ、どんどん中標津の町が良くなってきますし、計根別に関しましても町が良くなれば、じゃあ中標津はちょっと土地が高いから計根別のほうに家を建てようかななんて人が増えていけば、計根別も衰退せずに町をキープできると思いますので、そのような感じで今後とも応援していただければと思います。よろしくをお願いします。

(東田コーディネーター)

ありがとうございました。若い力に対して仕込みではないエールをいただいて、本当にうれしいです。計根別ではこの後のまちづくりということでやっていきたいとおもっております。あとみなさんには1回ずつ発言していただいて、パネルディスカッションを終了したいと思えます。本当に最後の一言になりますので、中標津型の景観整備機構が住民のネットワークからできるんじゃないかという話をいただきましたが、ありきたりになります。協働による、そしてもう1つは若い力ということで多少失敗しても気にしない景観整備機構ということでやっていけたらと思います。その最初のスタートと捉えたときに、皆様からなにか一言、エールなり課題なり、来年の今頃にこの1年よかったねと言うための一言をお願いできればと思います。まずは外崎先生お願いします。

(外崎パネリスト)

来年度の夏のワークショップで、まち歩きがまたできたらいいなと思っていますが、その時に中標津らしい色を、それが外壁だったり、ファサードだったりそういったところに使われていって町が整っていくと、先ほど西興部のお話もありましたが、西興部がオレンジに決めたのは本州のカラーコーディネーターの方らしいんですけども、本州の色の見え方と北海道の見え方というのが全然違います。そして冬の見え方と夏の見え方も違いますので、ぜひ季節折々に見ていただいて地元の方がやはり色を決めるのが私はいいかんかと思っております。みんなで見つけてみんなで決めたキラキラの宝物の色を、次の世代に繋げていって、色から地元への愛着というものを広げていくということ、そのお手伝いもわたしが出来たらいいなと思いますので、よろしくをお願いします。

(東田コーディネーター)

今回は中標津の市街地と空港、山並みを見たいんですけども、夏は中標津の市街地と、計根別のほうでも色のワークショップを企画しておりますので、2か所でやることになるかなと思っております。では細谷さんのほうから、今出た計根別の話、計根別のまちづくりやみんなかをどうしていくかということを一言お願いします。

(細谷パネリスト)

先生からもお話があったように色も大事ですし、後は中標津の景観整備機構ということで、先ほどお話をいただいた格子状防風林や歴史ある伝成館などの歴史的価値のある、観光に繋がるような大切なものはその思いとともにどんどん次の世代へと引き継げるような動き、そして子供たちにもどんどん関わっていただきたいと思ひもあり、まちづくりという部分で子どもたちももちろん大事ですが、高齢者の方々も今までの中標津を作ってきた功労者だと思うので、そういう部分で子ども達だけでなく年配の方たちも不自由なく住めるようなまちづくりを進めることによって、それがまた観光や産業に繋がっていくと思ひますので、そういう部分で僕は今38歳ですが、計根別で活動することによって今までに活動してきた上の方々から引き継いで、それをまた次の世代に繋いでいけるような活動の一端を担っていければいいなと思っております。よろしくをお願いします。

(東田コーディネーター)

ありがとうございました。それでは次は國分さんをお願いします。若い力でやる、ちょっとくらい失敗してもいい景観整備機構についてなにかあればお願いします。

(國分パネリスト)

このお話に関わらせていただいて、先ほど西興部の話にかなり共感したんですけども、まちづくりができるというのが、ピンとはきていなかったんですけども、結構好きだったのが、アメリカのポートランドがまちづくりで有名なのはなにかのきっかけで知っていて、後は北海道でも遊びに行くのが好きなので、道南の江差町に行っ

たとき、すごく街並みがいいなあうらやましいとか、東川町に行ったときにはこの辺最高だなあみたいのがよく思っているんですけども、そういったものでじゃあ中標津はどうなのかとなったときに、好きなんですけどもモチベーションは不満からくることが実はあって、もっとこうしたいとか、もっとこうなればいいのにと、今こういう話してるけどいやそっちの方向なのかあという、色々思っているところはあるのですが、そういうものを作っていくのは一人ではできませんし、一人だただの意見で、愚痴で終わってしまうこともあるので、自分が住んでいる町や育った町なのであれば、自分がかっこいいと思えるような良いまちづくりに自分が関わっていくしか方法はないのかなと思いますし、先ほどの20年かかったとおっしゃっていましたが、やっぱりすぐにはできませんし、計根別エリアでは800人でも、中標津では24000人となると時間もかかることだと思いますけども、その分やれることも規模が大きいこともできると思いますので、そういったスタートとして、僕も自分のやりたいことなどの趣味趣向が非常に偏っている人間でありますので、そこの中で関われる部分で関わらせて、無理をしない範囲で、自分の良い部分がうまく影響していくような感じでまちづくりに関わっていきたいと思っています。ありがとうございます。

(東田コーディネーター)

ではぜひ一緒にやりましょうということでよろしくお願ひします。最後に坂井先生のほうからもしよければエールをお願いします。

(坂井パネリスト)

もう大丈夫だと思います。色々なことをするときにはヒト・モノ・カネというように簡単に整理がつくのでよく言いますが、景観まちづくりというのはヒトモノカネといってもやっぱり人なんだなとずっと思っていて、お金も最後に綺麗にしますというときに関わるんですけども、一般的にはそんなにはかからない。ただお金で最初に言われるのは景観で儲かるのかということで、儲かることはないかもしれませんが、その町が存続していくためには絶対に必要です、死に体になってしまいますという話を一番最初に話したかと思ひます。景観を次につなげようというヒトがいれば、モノは練馬のときにも言いましたが皆さんが発掘すれば必ずあるので、景観は生業の蓄積です。皆さんが築き上げてきた、開拓して、農地を作って、酪農を育てて、チーズを作るといふこの生活の蓄積が景観として表れている。それを守っていくという意味ではモノは必ずあります。それをちゃんと発掘して、どう発信するかです。それをやるのは結局ヒトなんです。なのでここはもうヒトがいますので、心配はしていません。ですがこの二人にすべてをとということではなく、26団体がこれだけのことをやりましたという、どっちにしても来年はまたすごいことになっているんじゃないか

などという気がしています。

最後に蛇足かもしれませんが、最近地方創世などでほかの町に行っていて思うのは、あと1つ中標津にもしお願ひしたいとすれば、都会と繋がって欲しいと思うんですよね。地方創世の場合、やはり地方、中標津は恵まれていて他の人の力を借りずにも絶対やっていけるというものもあるのですが、それでもこの国ではすべての人口が減るとかの色々な問題に面しているの、何かしらで札幌と繋がる、何かしら東京と、それ以外の大きな街などと、その繋がるというのは産業だけでなくたとえば防災でどうやって連携するのかなど、何かしらで繋がっておくというのは本当に大事だなと、そういうネットワークを繋げるというのは、景観から離れているように見えるかもしれませんが、次世代に町を繋ぐという意味では非常に大事なことなので、蛇足ながらそんなことも付け加えさせていただいて終わりにします。



(東田コーディネーター)

ありがとうございます。都会と繋がるという大きな課題を投げかけられたので、頑張りたいと思います。今日のパネルディスカッションはこれで終了させていただきたいと思ひます。来年度は特に景観整備機構という組織化などについて色々試行錯誤する年になるのかなと思ひますが、皆様の協力がまた必要になると思ひますので、ぜひよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○司会：本間

パネリストのみなさん、コーディネーターの東田さんありがとうございました。改めて拍手をお願ひいたします。最後に本フォーラムの実行委員長の森田正治よりご挨拶を申し上げるところですが、所用で欠席ですので、代読いたします。

■挨拶：なかしべつ景観まちづくりフォーラム

実行委員長 森田正治

本日は大勢のみなさまに「なかしべつ景観まちづくりフォーラム」へご参加いただき誠にありがとうございます。本フォーラムの実行委員長を仰せつかりました森田でございます。実行委員長という立場でありながら、所要によりこのような形でのご挨拶となってしまいましたことに深くお詫び申し上げます。

まず、基調講演をいただいた外崎代表そして中標津町
景観計画策定のときからお世話になっております坂井教
授におかれましては遠方からお越しいただき誠にありが
とうございます。また、パネルディスカッションでは細
谷さん、國分さん、コーディネーターの東田さんをはじ
め関係者の皆さまにお礼申し上げます

活動報告にもありましたように、なかしべつの景観ま
ちづくりの新たなスタートの1年目として、「みんなのな
かしべつプロジェクト」を立ち上げました。この中で新
たに「なかしべつの色」という観点の取り組みはすばら
しいと感じました。

私の中標津町で景観の活動を始めて月日が経ちますが、
今日のように若い人たちが活動してくれることは大変嬉
しく思います。みなさんがふるさとを大切にす気持ち
を中標津型景観整備機構の設立に向け、お力添えをいた
だきたいと思います。

実行委員会を代表してお礼のご挨拶といたします。本日
は本当にありがとうございました。

○司会：本間

以上をもちまして、なかしべつ景観まちづくりフォー
ラムを終了いたします。お帰りの際は忘れ物のないよ
うに気を付けてお帰りください。本日のご来場まことに
ありがとうございました。